

第 20 回情報システム学会全国大会・研究発表大会報告

さる 11 月 30 日、12 月 1 日に、情報システム学会全国大会・研究発表大会が種智院大学（京都市伏見区向島西定請 70 番地）で開催されました。大会テーマは、「情報文化と情報システム」としました。大会では、研究発表（ロング 17、ショート 14）、ポスターセッション（19）、研究会報告（4）、合計 54 件（前年比 146%）の報告があり、活発な議論がかわされました。特別講演 1 では遠山茂樹氏（高知大学教授、情報文化学会会長）から「情報文化学会の沿革と「情報文化」と題して、片方先生の情報文化論を軸に、学会内でどのように「情報文化」が論じられてきたかをご紹介賜り、近年の研究動向、今後の研究展望についてお話しいただきました。特別講演 2 では岡村暢一郎氏（京都芸術大学准教授、大会実行委員長）から「学びの未来をデザインする～マルチクリエイターとしての空海」と題して、空海と綜芸種智院の沿革を受け、「もし「空海」ならば今の「社会をどうデザイン」するか」という視点での令和版の大学の在り方についてのお話しをいただきました。

「浦昭二記念賞」の表彰式が執り行われ、内田勝也氏（情報セキュリティ大学院大学名誉教授）、サイボウズ株式会社、青山学院大学社会情報学部、江口祐輔氏（麻布大学生命・環境科学部教授、フィールドワークセンター長、美郷バレエおおち山くじら研究所長）に実践賞が贈られました。また、本大会では初のエクスカージョンを開催。開催校を支える経営本山の 1 つである真言宗本山 醍醐寺のご協力を賜り、「雨月茶屋」で昼食をいただいたのちに、俊海様（総本山醍醐寺 真言宗醍醐派宗務庁 教学課長補佐）のご先導のもと、三宝院、金堂、五重塔の見学をさせていただきました。時幸いにも、紅葉の真っ只中であり、研究活動の忙しさの中での一抹の清涼剤になったように感じます。

大会実行委員、開催校事務局の協力、学生 7 名の協力により無事に大会を運営することができました。大会参加者、大会関係者に感謝いたします。当日は学生を含め 95 名の参加があり、大会は終了しました。会場設備等により、講演者が聞きづらかったり、質問者の会場マイク利用が至らず、聴講者の皆様にご不便をおかけしたと推察いたします。この場を借りて、お詫び申し上げます。末筆とはなりますが、全国大会の開催にあたり、企業 7 社から協賛を頂きました。また 16 の学会、協会、企業からご後援を頂きました。紙面上からとなりますが、協賛、後援を頂いた団体の皆様にご報告とお礼を申し上げます。

（大会実行委員長 岡村暢一郎）